

<点検>（評価内容）一覧

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」より

令和6年度 自己点検・自己評価

評価基準： ・よく当てはまる： 2 ・大体当てはまる： 2 ・当てはまらない

				令和5年度				令和6年度			
I	教育理念・教育目的	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策		
1-1	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	中原・川畑・割地	3	・教育理念や教育目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページ、各教室にも掲示をして学生への浸透を図っている。また、副校長より新入生に対しては入学ORの時に説明している。 ・今年度より、DPを設定したが学生の学習指針となっているかは不明である。 ・学校教育法、教育基本法、指定規則の要件に沿って運営している。	教育理念、教育目的が学生の学習指針となっているかは、令和5年度末に完成したDPルーブリック評価表を用いて、学生自身が自己評価し、学習状況を見直し、到達できるよう指導・支援をしていく必要がある。 DPルーブリック評価表の活用方を学生、教員に周知し、今後活用していく。	大川内・川畑・割地	3	・教育理念や教育目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページ、各教室にも掲示をして学生への浸透を図っている。また、新入生に対しては入学ORの時に説明している。 ・DP評価はしているが、教育理念目標とのつながりを認識しているか確認できていないため学生の学習指針となっているかは不明である。 ・学校教育法、教育基本法、指定規則の要件に沿って運営している。	・DPルーブリック用紙に教育理念・教育目的を記載して学生の意識づけを行う。 ・卒業時の看護師に求められる実践能力のアンケート調査結果の分析と妥当性検証が必要である。。		
1-2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。		3	3							
2-1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。		3	3							
2-2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。		2	2							
3-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。		3	3							
3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。		3	3							
3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。		3	3							
4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。		3	3							
4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。		3	3							
5-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。		3	3							
5-2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3	3								
令和5年度						令和6年度					
II	教育目標	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策		
1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	中原・川畑・割地	3	・教育目標は、教育理念・教育目的と一貫しており、教育内容は卒業時の到達目標に対し体系的に抽出し、教育理念、教育目的との整合性やDPや目指す看護師像をもとにカリキュラムツリーで科目の関連性も確認していたが、教育目標とDPの表現として、到達レベルに相違が生じている箇所があることがわかった。 ・卒後の継続教育については、教育目標6に謳っているが、卒後の状況の把握が不十分であり、教育目標の評価がしにくい状況	・卒後の状況については母体病院に勤める卒業生の状況を確認しているが、評価がどこに活かされているのか不明確である。また、限定された卒業生の評価になっている。そのため、卒後の活躍状況についてのアンケートを同窓会場の活用して行ったり、卒後の卒業生たちがアンケートに答えやすい仕組みづくりを構築することが必要。	大川内・川畑・割地	3	・教育目標は、教育理念・教育目的と一貫している。 ・学年別目標とDPとの整合性が不十分であるが、昨年から課題残るがシステム構築がされていないことから改善につながっていない。 ・卒後の継続教育については、卒業生へのアンケート実施しておらず、評価できない。	・DPルーブリックと学年別目標の内容精査と運用システムの構築 ・卒業生へのアンケートの実施と、継続的に行えるよう仕組みづくりを行い評価する。（ホームページの活用など）		
2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。		3	3							
2-2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。		2	2							
3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。		3	3							
3-2	教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている。		3	3							
4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。		3	3							
5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。		2	2							
令和5年度							令和6年度				
III	教育課程経営	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策		
	<教育課程経営者の活動>	貴島・出口・玉利・山田		・今年度、カリキュラム評価計画を作成し、共通理解できている。	・ディプロマポリシーの達成にむけて科目の配列が意図的に計画されていることを学生に理解してもらうため、学生便覧にカリキュラムツリー図を追加する。 ・評価結果の活用における倫理規定を明確にする。	貴島・玉利・牟禮		・カリキュラム評価計画を作成し、共通理解できている。 ・新カリキュラムの教育理念・目的・目標からおりた科目の考え方が明記されている。	・ディプロマポリシーの達成にむけて科目の配列が意図的に計画されていることを学生に理解してもらうため、学生便覧にカリキュラムツリー図を追加する。 ・評価結果の活用における倫理規定を作成する必要がある。		
1-1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。		3	3							
1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。		3	3							
	<教育課程経営者の活動>			・新カリキュラムの教育理念・目的・目標からおりた科目の考え方が明記されている。			・新カリキュラムの教育理念・目的・目標からおりた科目の考え方が明記されている。				
1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3	3							
1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3	3							
1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3	3							
	<科目、単元構成>			・新カリキュラムの運用にあたって共通理解のもと一貫した教育活動を行っている。			・新カリキュラムの運用にあたって共通理解のもと一貫した教育活動を行っている。				
1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。		3	3							
1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。		3	3							
1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。		3	3							
2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である		3	3							
2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。		3	3							
	<教育計画>			・科目の単元については、重複を避けなお関連性をもたせて構成した。その考え方や内容は履修要覧に載せている。 ・構成した科目は看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに則って構成している。			・科目の単元については、重複を避けなお関連性をもたせて構成した。その考え方や内容は履修要覧に載せている。 ・構成した科目は看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに則って構成している。				
1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。		3	3							
1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。		3	3							
2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。		3	3							
	<教育課程評価の体系>			・単位履修については、学生便覧や履修要覧に明記している。順序は教育的な効果をふまえ、進度表として学生便覧に載せている。 ・新カリキュラムの科目の関連性についてはカリキュラムツリー図を作成し、教員及び講師間で共通理解を図った。学生の理解を進めることが課題である。			・単位履修については、学生便覧や履修要覧に明記している。順序は教育的な効果をふまえ、進度表として学生便覧に載せている。 ・新カリキュラムの科目の関連性については、教員の専門分野に担当を分けて、時間配分もできている。 ・教材研究ができる時間も確保できている。 ・研修案内が回覧されたり、上司からの勧めによって外部研修が受講できている。研修費用の予算も確保できている。 ・相互研鑽のシステムはあるが、今年度は研究授業の実施ができていない。しかし、領域横断科目を活用し、他領域の教員と協力体制を組むこと				
1-1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。		3	3							
1-2	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。		3	3							
2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。		3	3							
3-1	教育課程を評価する体系を整えている。		3	3							
3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。		2	2							
	<教員の教育・研究活動の充実>	大川内・牟禮・割地		・専門に応じて講義を受け持てるよう配分している。 ・教材研究時間確保は業務整理の上確保している。・外部研修についてはリモートやeラーニングを活用し、受講できた。研修費用も確保できている。 ・教員間での相互研鑽の場である研究授業は実施しつつある。（今年度から） ・各実習要項を通じて教育目的や目標を説明し、理解していただいている。 ・学内で実習指導者の役割は作成したが、実習場個別の状況もあり一律の取り決めまでは至っていない。新型コロナ流行中の受け入れで臨床の状況にも左右されるため、詳細は指導教員との打ち合わせのもと随時役割を担ってもらっている。 ・受け持ち対象については個人情報保護の誓約書を提出し、受け持ち時の同意書、同意を得た旨を記録に残し、了承を得て受け持っている。 ・学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。 ・学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	・新カリキュラムの具体的な教授方法や授業構成について継続的に研修を受けて活用する。 ・すべての教員が研究授業を実施し、発展させていく必要がある。 ・臨床指導者の役割は学校の方針を明確にして、状況の応じて実習場と協議を継続していく。 ・前年度の分析を基に計画的に安全教育を継続していく。	中原・牟禮・割地		・教員の専門分野に担当を分けて、時間配分もできている。 ・教材研究ができる時間も確保できている。 ・研修案内が回覧されたり、上司からの勧めによって外部研修が受講できている。研修費用の予算も確保できている。 ・相互研鑽のシステムはあるが、今年度は研究授業の実施ができていない。しかし、領域横断科目を活用し、他領域の教員と協力体制を組むこと	・積極的に領域横断科目を活用して、教員間の相互研鑽を行っている。 ・新カリスタートに伴い新設科目の評価のためにも研究授業を積極的にしていく。		
1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。		3	3							
1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。		3	3							
2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。		3	3							
2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。		3	3							
	<学生の看護実践体験の保障>			・臨床指導者の役割は学校の方針を明確にして、状況の応じて実習場と協議を継続していく。 ・前年度の分析を基に計画的に安全教育を継続していく。			・積極的に領域横断科目を活用して、教員間の相互研鑽を行っている。 ・新カリスタートに伴い新設科目の評価のためにも研究授業を積極的にしていく。				
1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。		3	3							
1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。		3	3							
2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。		2	2							
2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。		3	3							
2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。		3	3							
3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。		3	3							
3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。		3	3							
4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。		3	3							
4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。		3	3							

令和5年度					令和6年度					
Ⅳ	教授・学習・評価過程	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策	
	＜授業内容と教育過程との一貫性＞＜看護学としての妥当性＞＜授業内容間の関連と発展＞	大川内・玉利・牟禮・山田		新カリキュラムの教育内容構築が具体的に進み、昨年度課題であった発展性についても協議し具体的に becoming。また旧カリキュラムについても積極的に新カリキュラムに準ずる内容となるよう見直しを進めている。	教育目的・目標に近づけるためのディプロマポリシールーブリックが完成し、1年次からの積み上げや発展性が明確になった。運用が開始されているため次年度の評価が必要である。	玉利・牟禮・出口		教育目的・目標に近づけるためのディプロマポリシールーブリック運用が開始され評価を始めている。	領域横断科目間の連携が効果的であったため、その他の科目間での連携を密に行い、授業評価に生かしながら、さらに発展的な教育に繋げていく必要がある。	
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。		3				3			3
2－1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。		3				3			3
2－2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。		3				3			3
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。		3				3			3
4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。		2		3					
	＜授業の展開過程＞									
1	授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。		3	・履修要覧の記載内容を統一し、授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、評価についても具体的に説明している。	・学生の学習を深化、発展させるための授業計画について現在具体的に構築中である。そのため次年度、進捗について点検が必要である。		3	・学生の学習を深化、発展させるための授業計画について具体的に作成し、学生にも提示して授業展開している。授業についてはシミュレーションモデルの活用や様々な授業形態を活用している。領域横断のみならず、他の授業においても、教員間の連携を図り授業協力を行っている。	学生の学習を深化、発展させるための授業計画について、さらに強化して学習支援を行っている。	
2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。		3				3			
3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		2	・演習等を行う際の教員間の協力体制はできている。複数教員の協力が必要な授業形態について、学生へ随時説明している。	・教員の協力が必要な授業形態については、シラバスは入学時の時点の情報であるため、シラバス説明の際に必ず追加説明する。		3			
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。		3				3			
	＜目標達成の評価とフィードバック＞									
1－1	評価計画を立案し、実施している。		2	・授業や実習は学生からの他者評価を実施している。それに加えて、学生たちが技術到達評価を自主的に行った結果や、卒業前に「卒業時に到達すべき目標」の学生評価を用いて、教育活動の評価を行っている。現在、他者評価は科目の総括評価になっているため、授業の展開を評価するための形成評価を取り入れることが必要である。	・形成評価を計画し、授業改善につなげる。 ・各科目のルーブリックを完成させ、教育目標達成の検証へつなげる。		2	・形成評価を取り入れ、授業展開に生かしている教員もいる。演習などの評価は適宜行っているため継続していく必要がある。	・一部教員が形成評価を実施しているため、全教員が実施できるよう共通認識が必要である。また、授業評価計画については、授業開始前に計画し、学生に提示し段階的に授業評価を行い、授業改善につなげていく。	
1－2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。		2				2	・新カリキュラムにおいて、教育目標、ディプロマポリシーのルーブリックが完成し、評価している。また、実習のルーブリック評価表が完成し、次年度から運用・評価していく予定である。		
2－1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。		3				3		・実習のルーブリック評価表が完成し、次年度から運用・評価していく予定である。	
2－2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。		3				3	・授業評価計画については、他者評価のみとなっているため、教員の自己評価を取り入れた評価計画が必要である。		
3－1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。		3	・新カリキュラムにおいて、教育目標、ディプロマポリシーのルーブリックが完成し、現在各科目目標の再確認とルーブリック作成に取り組んでいる。これにより、教育目標の達成度検証につなげていく予定である。						
3－2	単位認定の評価には公平性が保たれている。		3				3			
	＜学習への動機づけと支援＞									
1－1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3	・入学時に、学生便覧と履修要覧（シラバス）は1冊にして、学生個々に渡し内容を説明している。また、授業開始時にもシラバスを用いて、実習を行っている。	・現行のシラバスの評価・点検と自発的学習につながっているかの検証が必要である。	3	・入学時に、学生便覧と履修要覧（シラバス）は1冊にして、学生個々に渡し内容を説明している。また、授業開始時にもシラバスを用いて、授業・実習を行っている。	・現行のシラバスの評価・点検と自発的学習につながっているか、授業評価または実習評価の自己評価を参考に評価する。学生の授業の取り組みの中間評価を行うことの検討が必要。			
1－2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	3	・シラバスを今年度から改善し、学習準備につなげられている。		3	・シラバスには、各単元ごとのねらいを表記し、学生の学習動機へと繋げている。				

令和5年度					令和6年度					
Ⅴ	経営・管理過程	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点	評価	改善点・対策	
	＜設置者の意思・指針＞	貴島・橋元・出口・川畑		・学生便覧に教育理念・教育目的・目標は載せている。中長期計画で ・今年度、DP達成のためのルーブリックを作成した。	・ルーブリックの運用、アセスメントポリシーを作成し明示する。	貴島・橋元・出口		・学生便覧に教育理念・教育目標・目的が明確にされている。DP達成のためのルーブリック評価は現在運用中である。管理運営は中長期計画にて明示しており、管理運営の考え方については運営会議で承認されている。	アセスメントポリシー未作成にて、今後明示する必要がある。	
1－1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。		3				3			3
1－2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。		3							3
1－3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。		2							2
1－4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。		3							3
1－5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。		3		3					
1－6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。		3		3					
	＜組織体制＞									
1－1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。		3	・権限や役割機能について、校務分掌や組織図で明確にしているが、意思決定システム及び教職員の任用の考え方が文書化されていない。	・学校管理マニュアルの職員会議規定・教員会議規定・実習会議規定に「教職員の意見を反映させた運営とする」を一文追加する。		3	・権限や役割機能について、校務分掌や組織図で明確にしているが、意思決定システムについては未作成である。	・学校管理マニュアルの職員会議規定・教員会議規定・実習会議規定に「教職員の意見を反映させた運営とする」を一文追加する。	
1－2	意思決定システムが明確になっている。		2		・組織管理規定に、第3章「組織体制」として追加をし、教職員の任用の考え方を明示した文書、教職員の選考、資格審査、任免、昇格等に関する規定を明記した文書、講師選定の考え方を明記した文書を追加する。		2	・教員は看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに基づき任用して。また教職員の任用の考え方については「看護学校管理マニュアル」の職務基準に明記している。		
1－3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。		2				2			
1－4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。		3	・教職員の倫理規定について明示した文書がない。			3			
2－1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。		2				3			
2－2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。		2				3			
	＜財政基盤＞									
1－1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。		3	・財政基盤の考え方は、前年度の収支と今年度の予算をもとに職員会議で共通理解を図っている。			3	・財政基盤の考え方は、前年度の収支と今年度の予算をもとに職員会議で共通理解を図り、運営会議で承認を得ている。		
1－2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。		3				3			
2－1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。		3	・長期計画をもとに、I P a d購入予定とし、I C T教育につなげる予定である。			3			
2－2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。		3				3			
	＜施設設備の整備＞	橋元・出口・山田・玉利		・設備、備品の整備については、本校の中長期計画で実施されている。職員・学生が使用するパソコンは次年度更新予定である。 ・「Sinario」はリース契約で使用している。学内実習での活用が増加しているため、次年度も継続予定である。 ・万能型看護実習モデルは次年度までかけて既存のモデル人形とすべて入れ替えが終了予定である。 ・次年度にむけ電子テキストを導入予定である。 ・福利厚生の施設・設備については校内にWifiが整備されている。学生と教員が協力し校内で快適に過ごせるよう整備・清掃している。また、学生に対し心・知・体賞や多読賞の受賞者に図書カードを贈呈している。	・心・知・体賞や多読賞について、入学オリエンテーションで紹介し学生の意欲向上につなげる。また、受賞者に贈呈している図書カードを学生が利用しやすいQUOカードに変更できないか検討する。	橋元・玉利・川畑		・設備、備品の整備については、本校の中長期計画で実施されている。職員・学生が使用するパソコンは令和6年度更新済みである。 ・「Sinario」はリース契約で使用している。学内実習での活用状況を確認し、次年度は契約なし。 ・万能型看護実習モデルは予算に計上してあるが学生数減少に伴い、購入までには至らなかった。次年度以降、購入を検討していく。 ・電子テキストを導入し活用している。 ・福利厚生の施設・設備については校内にWifiが整備されている。また、前校長より、椅子の寄贈があった。今後も学生と教員が快適に過ごせるよう福利厚生を検討していく必要がある。学校環境について、学生と教員が協力し校内で	・万能型看護実習モデルの購入検討。 ・心・知・体賞や多読賞について、入学オリエンテーションで紹介し学生の意欲向上につなげる。受賞者に贈呈している図書カードを学生が利用しやすいQUOカードに変更できないか引き続き検討する。	
1－1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。		3				3			3
1－2	管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。		3							3
2－1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。		3							3
2－2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。		3							3
3－1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設設備の整備を検討している。		3		3					
3－2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。		3		3					
	＜学生生活の支援＞									
1－1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。		3	・掲示板や始業式、入学オリエンテーションなどで各相談窓口や担当者を紹介している。学年担当・進路担当・奨学金担当・健康管理担当などで対応している。	・学生の悩みも多様化しているため、今後も本人のニーズを把握したうえで、支援者である家族や委託病院と連携し、学業継続の道を選択できるよう、情報提供などを行っていく必要がある。		3	・掲示板や始業式、入学オリエンテーションなどで各相談窓口や担当者を紹介している。学年担当・進路担当・奨学金担当・健康管理担当などで対応している。	・学生の悩みも多様化しているため、今後も本人のニーズを把握したうえで、支援者である家族や委託病院と連携し、学業継続の道を選択できるよう、情報提供などを行っていく必要がある。	
1－2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。		3	・経済的支援として、附属の広域医療センターに就職する依託学生については、授業料に加え、入学金および教材費の貸与が追加された。			3	・経済的支援として、附属の広域医療センターに就職する依託学生については、授業料に加え、入学金および教材費の貸与が追加された。		
1－3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。		3	・県の就学資金、はやぶさプラン、日本学生支援機構の希望者には、情報提供を行っている。 ・学業継続が困難な学生には随時面談を行い、必要であれば本人了承の上家族への支援依頼や、専門窓口への相談をすすめている。 ・カウンセリング窓口は、入学時オリエンテーションで紹介し、必要時は学年担当が窓口となっている。			3	・修学資金先(教育訓練給付制度(専門実践教育訓練))の拡大に向け、検討中である。 ・学業継続が困難な学生には随時面談を行い、必要であれば本人了承の上家族への支援依頼や、専門窓口への相談をすすめている。 ・カウンセリング窓口は、入学時		

<養成所に関する情報提供>		橋元・玉利・中原・石澤	3	・入学ORで保護者へのORを行っているが全員参加ではない。成績表発送は第1保証人へ行って情報提供している。また、単位に関わる学生に関しては本人の了承のもと、保護者・委託病院への情報提供を行っている。	3	・学校活動についてInstagramで情報を得る機会が多いため、Instagramの紹介とホームページにもInstagramの案内を提示する。学習困難者に対しては継続して情報提供を行う。	貴島・中原・橋元・石澤	3	・入学ORで保護者へのORを行っているが全員参加ではない。成績表発送は第1保証人へ行って情報提供している。また、単位に関わる学生に関しては本人の了承のもと、保護者・委託病院への情報提供を行っている。	3	・学校活動についてInstagramで情報を得る機会が多いため、Instagramの紹介とホームページにもInstagramの案内を提示する。学習困難者に対しては継続して情報提供を行う。
1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。			・今年度もオープンキャンパスでは出水准着学校2年生全員が参加できるよう調整して頂いた。夜間開催も実現し、オープンキャンパスの参加者から7名の進学があり効果的であったと考える。		・Instagramはこまめにフォローを行い、繋がりを広げていく必要がある。学生の投稿以外にも学校からお知らせなどを投稿する・阿久根市役所との繋がりが継続し教科外活動を通して地域住民との交流の機会を設ける。			・今年度もオープンキャンパスに出水准着学校2年生全員が参加できるよう調整して頂いた。夜間開催も実現し、オープンキャンパスの参加者から10名の進学があり効果的であったと考える。		・Instagramはこまめにフォローを行い、繋がりを広げていく必要がある。学生の投稿以外にも学校からお知らせなどを投稿する・行動等との繋がりが継続し教科外活動を通して地域住民との交流の機会を設ける。
1-2	関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。			・ポランティア活動では、地域のサロンに参加し校内に地域の方を招いた意見交換会を行うなど地域交流の機会を設けることができた。また、Instagramや学校案内の発送、ポスター貼付(150枚、九州内の学校、出水・阿久根地区のスーパー、施設など)を行った。		・カリキュラム内容に魅力が持てる授業の工夫を行うなど、学生間で本校のロコミが広がるよう教育活動に力を入れる。			・ポランティア活動では、地域のサロンに参加し校内に地域の方を招いた意見交換会を行うなど地域交流の機会を設けることができた。また、Instagramや学校案内の発送、ポスター貼付(九州内の学校、出水・阿久根地区のスーパー、施設など)を行った。		・カリキュラム内容に魅力が持てる授業の工夫を行うなど、学生間で本校のロコミが広がるよう教育活動に力を入れる。
2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。										
2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	3									
<養成所の運営計画と将来構想>		橋元・玉利・中原・石澤	3	・本校の教育・経営方針については、運営委員会や第三者委員会で報告しており、自己評価・自己点検結果はホームページに公表している。	3	・本校の教育・経営方針については、運営委員会や第三者委員会で報告しており、自己評価・自己点検結果はホームページに公表している。	貴島・中原・橋元・石澤	3	・本校の教育・経営方針については、運営委員会や第三者委員会で報告しており、自己評価・自己点検結果はホームページに公表している。	3	・本校の教育・経営方針については、運営委員会や第三者委員会で報告しており、自己評価・自己点検結果はホームページに公表している。
1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。			・第5次カリキュラム改正をもとにした中長期計画を立案している。		・第5次カリキュラム改正をもとにした中長期計画を立案している。			・第5次カリキュラム改正をもとにした中長期計画を立案している。		・第5次カリキュラム改正をもとにした中長期計画を立案している。
1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。										
<自己点検・自己評価体制>		貴島・出口・川畑	3	・自己評価委員を中心に、委員会に全職員が参加しており、目的や評価方法を確認している。	3	・自己評価・自己点検の結果をもとに、教育活動の維持・改善につなげていく。	川畑・玉利・出口	3	・自己評価委員を中心に、委員会に全職員が参加しており、目的や評価方法を確認している。	3	・自己評価・自己点検の結果をもとに、教育活動の維持・改善につなげていく。
1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。			・評価は「評価の考え方」と「点検」を参考に、毎年度末に実施している。結果は、講師会議や第3者評価委員会で公表し、意見を頂きながらカリキュラム運営や授業実践に活用している。また、ホームページでも公表している。		・評価は「評価の考え方」と「点検」を参考に、毎年度末に実施している。結果は、ホームページでも公表している。その結果を踏まえてカリキュラム運営や授業実践に活用している。			・評価は「評価の考え方」と「点検」を参考に、毎年度末に実施している。結果は、ホームページでも公表している。その結果を踏まえてカリキュラム運営や授業実践に活用している。		
1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。			・改正された内容で教育活動を実践している。ディプロマポリシーのルーブリック評価を含めて、継続して自己点検・自己評価を行っている。		・改正された内容で教育活動を実践している。ディプロマポリシーのルーブリック評価を含めて、継続して自己点検・自己評価を行っている。			・改正された内容で教育活動を実践している。ディプロマポリシーのルーブリック評価を含めて、継続して自己点検・自己評価を行っている。		
2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。										
2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。										
2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	3									

令和5年度				令和6年度			
VI	入学	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点
	1	橋元・大川内	3	・入学者選抜基準は学校管理マニュアルの入学試験判定基準に準拠しており、判定の目安が決められている。また、学校パンフレットにもアドミッションポリシーにも明記している。しかし、前年度課題であった入学者選抜についての妥当性の分析が行っていない。しかし、受験者・入学者ともに減少しており、妥当性分析は困難な状況	・入学者選抜方法の妥当性とアドミッションポリシーの観点から分析・検証する。	橋元・貴島・出口	3
	2		2				2

令和5年度				令和6年度			
VII	卒業・就業・進学	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点
	1	大川内・山田・石澤		・卒業時の到達状況は卒業時技術評価を用いて行っている。そのうち、技術的側面については分析の上新カリキュラム検討とし、DPのルーブリック作成に繋げた。今後はルーブリック運営を随時評価修正することが必要となる。	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEAMSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステム化について検討し、分析や活用も必要となる。	大川内・割地・橋元・石澤	
	2-1		3			3	
	2-2		3			3	
	2-3		3			3	
	3-1		2	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	2	
	3-2		2	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	2	
	4-1		1	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	1	
	4-2		1	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	・卒業後の調査や情報交換は母体病院や医師会内医療機関など一部に限られている。卒業生との連絡経路も確立していない。	1	

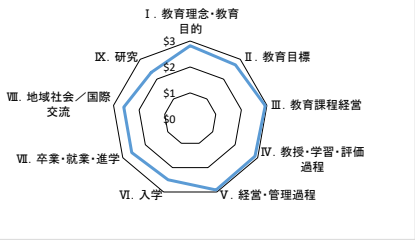
令和5年度				令和6年度			
VIII	地域社会／国際交流	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点
	<地域社会>						
	1-1	中原・牟禮・割地	3	阿久根市や阿久根市社会福祉協議会もご協力のもと、保健事業の転倒予防教室や介護予防事業のいきいきサロンに参加をさせてもらい、ボランティア活動を行いながら、地域の人々の生活を知り、ニーズを把握することが始まった。また、この活動から得た内容を地域・在宅看護論方法論Ⅰの授業の教材としている。	地域での活動を行う対象が、高齢者に偏っていることから、対象を拡大していくことが課題である。	大川内・割地・橋元・石澤	3
	1-2		3			3	
	2-1		3			3	
	2-2		3			3	
	3-1		3			3	
	3-2		3			3	
	4-1		3			3	
	4-2		3			3	
	<国際交流>						
	1	大川内・山田・石澤	3	・国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	・国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	大川内・山田・石澤	3
	2		2			2	
	3		1			1	
	4		1			1	

令和5年度				令和6年度			
IX	研究	担当	評価点	評価	改善点・対策	担当	評価点
	1	貴島・牟禮	2	・令和5年度入学生より新カリキュラムとなった。教育内容の変更に伴い、アクティブラーニングを導入し始めている。	・研究授業を全員が実施できるよう、計画的に進めることが必要である。	中原・大川内	2
	2		3			3	
	3		2	・今年度事業計画の一つであった研究授業に2名の教員が研究授業を行った。背		2	

自己点検・自己評価の項目別平均点（令和2年度・令和3年度）

自己点検・自己評価項目	R5平均点	R6平均点
I. 教育理念・教育目的	2.9	2.8
II. 教育目標	2.7	2.7
III. 教育課程経営	2.9	2.9
IV. 教授・学習・評価過程	2.8	2.9
V. 経営・管理過程	2.9	2.9
VI. 入学	2.5	2.5
VII. 卒業・就業・進学	2.5	2.6
VIII. 地域社会／国際交流	2.5	2.6
IX. 研究	2.3	2.3

令和6年度 自己点検・自己評価結果



令和5、6年度 自己点検・自己評価

